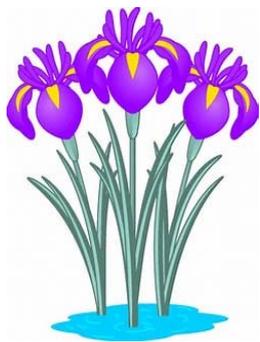




発行 2022年5月1日
5 月 第243号
 奈良・人と自然の会



<武者人形が勢揃い>



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	私の体感的音楽遍歴	8
Monthly Repo ならやま	2	病虫害講座	9
里山の今 (エコ・景観)	3	海外ボランティア活動体験記—2	10
里山の今 (虫だより・花だより)	4	新ならやま投句箱	11
新入会員歓迎会・レポ	5	行事案内	12
自然観察会・レポ	6	幹事会報告・編集後記	13
月例研修会・レポ	7		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

コロナ感染者数は増減を繰り返して人々を惑わせている。それでも季節は着実に進み、すべての生き物の息吹が感じられ、去年は不作だったタケノコは豊作。活動日では間に合わず、臨時活動として2日間もタケノコ掘りを実施。旬の味を堪能した。ミツバツツジをはじめならやまを彩る花々もますます楽しみな季節だ。5月には久しぶりのイベントもあり、子供たちにはならやまの素晴らしさを感じてほしい。

また、3年前に刊行された昆虫と植物編に続いて「見つけよう自然のなかま～ならやまの木々たち～」が有志のご努力によって完成し、配布が始まった。多様な生物が生息するならやまを何とか守り続けなければと改めて思うとともに、イベントなどでも活用して参加者にならやまの豊かさ、自然と共生することの大切さを考えてもらえるようにしたいものだ。

一方、これからの季節は紫外線や熱中症にも気を付けなければならない。集中力が散漫しがちになることも踏まえて、動力機器の使用には注意が必要だ。使用者登録を見直すとともに、必要な安全講習も企画していきたい。

5月の活動特記事項

協働活動：5月5日 アダプトプログラム

新入会員の各グループ体験参加：4月に引き続き継続した各グループの活動に参加

5月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備、薪割り、下草刈り、楢木本伏せの準備、イベント準備・片付け ユート：アカマツの森菌根菌の植菌
エコファーム	唐辛子、ピーマン、トマト、カボチャ、西瓜、さつま芋、ゴーヤ、ナス、オクラ、キュウリ、などの植え付け 水田水路整備、獣害対策ネットの設置
景観	整備：彩の森・BC周辺草刈り、養蜂巣箱の整備 ビオ：西池改修、木道改修、水生生物調査 花：山野草園、茗荷畑草取り
パトロール	1～3コースパトロール、観察路整備（階段、ロープ他）、保護植物周辺整備、樹木銘板取付け、笹草刈り、春の観察会（全会員対象）
果樹	果樹園除草、実りの森南側斜面灌木整理、給水設備設置、鳥よけネット設置、ウメの収穫、チップ作業（対象者に対しては事前安全講習実施）

活動日：毎週木曜日 9:00～15:00

前日水曜日の19時現在の気象庁予報（NHKTV 奈良 19時前放送）の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日とも同予報であれば中止



Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

3月24日(木) 晴れ 73名

朝のミーティングで新入会員歓迎会の案内、月末の備品点検日のお願い、4月実施予定の五月人形作りの締め切り、および月例研修会の最終案内を行う。終礼近くになって、日本一周自



転車の旅(おこめの旅)をしている若い女性が来訪。久しぶりにベースキ

ャンプが賑やかになった。

エコGは、レタス畑溝整備、マルチ張り、チップ入れ、二十日大根の種播きなど。景観GはBC沿いの伐採整備と真竹林の整備、蜜蜂巣箱整備、花班は花壇の草取り、ビオ班は湿地を回復する作業とビオエリアの水路の泥上げを行う。パトGは2コースパトロール、銘板作成、イベント準備など。果樹Gはコンポスト棚設置、ブルーベリー芽摘みなどを行う。

3月31日(木) 小雨 55名

朝から雨が降り、昼までの活動とした。予定していた新入会員歓迎会は来週7日に延期。年度末の為、各Gの倉庫での備品調査をお願いした。また、会報誌(20周年誌含む)を参加者に配布、初どり筍と椎茸の販売を行った。

里山Gは竹林内倒木の整理、椎茸採集。エコGはナスのポット移植、テント小屋の棚卸。景観Gは筍堀り、備品の棚卸、花班はトクサ、ホトトギスの移植、ビオ班は湿地内に水を引き込む為の水路作り、ビオエリアの泥上げなどを行う。パトGは自然観察路点検、エントランス階段補修など。果樹Gは枝打ちした杉の整備。

4月7日(木) 晴れ 85名

コロナ禍中での活動を始めて以来、最も多い

85名の参加があった。先週中止になった新入会員歓迎会行われ、新入会員12名の内9名が



参加した。心づくしの豚汁が提供され、おいしくいただいた後、各Gによるオリ

エンターションが行われた。

数名でアダプトプログラムを実施。エコGは水田の水対策とレタスの定植などを行う。景観Gは第3駐車場の笹チップ作業、筍掘りなど、花班は花生姜の囲い撤去など、ビオ班は水路の泥上げと掃除、西池アオミドロの除去などを行う。パトGは新入会員歓迎の準備、自然観察路の案内など。果樹Gは、コゴミ、タラの芽の収穫、階段の設置などを行う。終礼後、希望者が武者人形作りに取り組んだ。

4月14日(木) 曇り 活動中止

天気予報ルールにより活動は翌日に延期になったが、急遽、旬の筍掘りが呼びかけられた。お天気は予報に反して好天となり、約40名が参加し、皆さんに沢山の筍を提供できた。

4月15日(金) 振替活動 曇り 27名

振替活動日で参加人数は少なかった。里山Gは里山林内整備と筍掘りなど。エコGは、里芋の植え付けなど。景観Gは佐保自然の森の筍掘りなど、花班は、イチハツ、アガパンサスの草取りなどを行う。ビオ班は活動なしとなった。パトGは2コースパトロールで倒木処理など。果樹Gは、コゴミ、タラの芽の収穫と販売コンポスト棚の設置などを行う。

4月19日(火) 晴れ 約20名 自主活動

ここ数年林野庁事業として実施した竹林整備が功を奏したのか筍が豊作。旬を逃さぬとともに、竹林整備の一環として、有志が竹になる前に筍掘りを行った。

景観グループ

里山の今

エコグループ

◆平城山の今に思う

佐竹 樹之

平城山の活動地に着くと、いつも、鳥の鳴き声、木々のそよぐ音、草花の匂い、凜とした空気などが出迎えてくれて、思わず深呼吸してしまう程、心身ともに解放される感じがします。今は寒い時期を越えてきた、木々や草花が少しずつ色づいたり、緑が濃くなり、季節の歩みを目の当たりにしながら、この活動地に毎回感謝しています。活動地の一部で、大切に育てた野菜などが鹿などの被害を受けていますが、それら動物も自然界の一員であり、我ら人間と共生してきたわけです。これ迄は、人間の営みのみが最優先され、地球上の様々な処で甚大な自然災害が頻発してきて、昨今ようやく「SDGs」が叫ばれるようになり、これ迄の様々な人間活動が見直されてきています。私自身も、今ある自然環境を出来る限り守り、育て、未来に引き継げるように、してゆきたいと思います。

又、平城山での活動に参加して、強く感じるがあります。それは参加されている方々の「実に多様な専門知識や知恵」です。例えば、キノコに詳しい方、鳥の鳴き声に詳しい方、農薬や肥料に詳しい方、水路などを造る方、木材や竹材などで様々なものを作る方、構築物の設計図面を描く方、などなど枚挙にいとまがありません。これまでの様々な職業経験などで培われた知恵などに教えられることが毎回あり、学生時代に学んだこと以上に、自分自身の日々の生活に生かされることが多く、有り難い限りです。

このような、有り難い環境に居ることが出来る「平城山での活動」を続けてゆきたく、そうした活動を通して仲間と共に、少しでも社会に役立つ自分でありたいと思う。会のモットーにもありますが、私は「明るく、楽しく、仲間と共に」で、続けてゆきたいと思います。



◆里山と西谷さんと私

宝田 史子

定年後の夢がガーデニングだった私は、庭がなかったので、近くの畑を借りて花を育てていました。が、物足りず、花にかかわる事がしたいと思い、ボランティアセンターに。たまたま里山を見学、取材した人が対応してくださり、その人の勧めで里山に来ることになりました。

最初は名前のわからない花が多く、他のメンバーの人に聞かれても答えられず、「西谷さんに聞いてー」と言うことが多かった私でしたが、西谷さんの指導のもと、広範囲の花壇の草取りや、肥料やり、土づくり、柵づくりなどで、あっという間に8年半が過ぎました。

もぐもぐタイムでは、よく手作りのおやつを用意してもらって舌鼓。勉強のためのミニ講座も。でも、せっかく話してもらったにもかかわらず、数分後には・・・？ それでも、「わからん事は何回聞いてくれてもいいんやで、そうやって覚えていくんやから」と言ってもらっていました。

上高地や尾瀬、大台ヶ原、秋山郷、大歩危峡など、いろんな所に連れて行ってもらいました。

もっともっというんな事をしっかりと教わっておけばよかった。

「奈良・人と自然の会」に創立当時からかわってこられた西谷さん。今はきっと空の上からやきもきしながら見てはるやろな～ 怒ってはるかな？ それとも「頑張れ！ 頑張れ！」



って応援してくれているかな？ などと思いながら里山で活動している私です。



虫だより



里山の今

花だより

◆身近に見られる可憐なチョウ

菊川 年明

5月頃に身近に見られる可憐なチョウを3種ご紹介します。

◇ベニシジミ

可愛らしい小型のチョウです。名前に付いている「シジミ」とはシジミチョウのグループという意味です。「ベニ」は翅(はね)の色ですが、紅というよりは薄い朱色で美しいです。夏に現



われる型(夏型)は、翅の色が黒ずんでいます。低いところを飛び、タンポポやヒメジョオンの花によく来ています。

◇コムスジ

モンシロチョウくらいの大きさです。翅は濃茶色で白まだらの筋が入っています。名前に付いている「ミスジ」はこの白まだらが三筋という意味、「コ」は「小型の」という意味です。花にも来ますが、ならやまでは自転車道を少し東へ行った辺りでよく見かけます。ひらりひらりとゆっくり飛び、自転車道にもよく降りています。



◇ヒメウラナミジャノメ

モンシロチョウよりかなり小ぶりで、色彩は地味です。ヒメジョオンの花などによく来ていますが、道ばたでもよく見かけます。名前に付いている「ジャノメ」は翅の紋様を蛇の目模様に見立てたものです。「ヒメ」は同類中で大変小さい種の名前に冠せられます。



◆知れば納得 名の由来

桜木 晴代

パトロールグループは観察路の主な木々への名札を設置しています。先日、交換のための新しい名札作りに携わりました。

植物名は原則カタカナ表記とされていますが、ならやまの名札は漢字との並列表記にしています。漢字は名の由来などを表しているからです。しかし、その日は手元に図鑑もなくスマホ頼りの漢字調べとなりました。改めて、いくつかの木の名の漢字や由来を調べてみました。

*ネジキ(楢木) 幹が斧で割りにくい程、生える場所や風向きによりねじれる性質のある木ということから

*シャシャンボ(小小ん坊) 小さい実がなることから

*リョウブ(令法) 飢餓用の食料として葉を保存することが命じられたのでりょうほうに由来との説あり

*クチナシ(梔子・口無) 熟しても開かない実なので口がないという意味でつけられた

*サルトリイバラ(猿捕茨) 棘のある枝がつくる藪に猿を追い込んで捕らえたから

*イチョウ(銀杏・公孫樹・鴨脚)
銀杏: 黄橙のタネがアンズに似ているので杏、中種皮が白色なので銀とで銀杏

公孫樹(中国名): 老木にならないと実をつけないことから

鴨脚: 葉が鴨の脚に似ており、宋から帰国した修行僧がイーチャオと伝えたのがイチョウに変化

*カマツカ(鎌柄) 材が硬くて丈夫で折れにくく、農具の鎌の柄にも使われていたので

*サワフタギ(沢蓋木) 谷間の沢に蓋をするように横に枝を広げて葉を茂らすことから

さて「満天星躑躅」は何と読むでしょう? そして名の由来は?(ならやまにはない様ですが)

新入会員歓迎会・レポート

飯島 八重子

当初3月31日開催予定でしたが、雨天順延となり4月7日(木)春うらかな日というより、初夏を思わせる日差しの中、新入会員歓迎会が開催されました。

朝礼で本日のタイムスケジュールの発表があり、グループの活動は午前中に終了。11時40分の豚汁提供から始まりました。コロナ禍で中止になっていた豚汁に会員もほっこり笑顔に。



12時から会長より、本年度も新しい会員を迎えられた喜びや、平均年齢が少し下がり活動継続に期待が持たれる等の開催挨拶がありました。

続いて新入会員の自己紹介や入会の抱負など個々に話してもらい、入会への動機やすでに活動を開始している方の話、これからの意欲や希望に満ちた話などを語られました。新入会員の一人がオカリナで「どじょっこふなっこ」の演奏を披露、新旧会員全員で手拍子歌唱する場面もあり、和気あいあいの雰囲気の中で会員紹介を終えました。

12時30分からは、パネル展示前にて各グループの代表者による活動内容や現在の活動状況の説明があり、新入会員は熱心に聞き入っておられました。パネルによる説明後、新入会員に感想を尋ねると、「自分の出来る力を考えて活動を決める参考になった」「会の内容が写真で分かってとても良かった」という声が聞かれました。



その後スケジュールは予定通り、ならやま観察路見学へと進み、新入会員を含めて計23名の参加により、1班8名、2班6名、3班9名に分かれて、パトロール班スタッフ9名が各班に付き添い観察路見学に出発。満開の草花や樹木の説明を聞き、観察展望広場での眺望に歓声を上げながら春の里山を楽しみ、無事歓迎会を終えました。

余談ですが、新入会員歓迎会開催の為の準備は、3月24日から始まり、パネルにグループごとの写真貼付の作業中、会員の「わあ～懐かしいな～!」「わあ～!〇〇さんも写ってる～!」「いやあ～!あの時分はあんたもえらい若かったな～!」「〇〇さん、ほんまによう頑張ってたな～!」等の声があちこちから聞こえ「奈良・人と自然の会」の年月と先輩会員の来し方に感じ入りました。

昨今のコロナ禍の中、種々の困難な状況があっても「奈良・人と自然の会」の会員の熱意がこれを吹き飛ばし、来年度も沢山の新入会員を迎え希望に満ちた新入会員歓迎会が開催出来ますように。



自然教室だより

4月・春爛漫の奈良公園
桜見物 報告



辻本 信一

サクラの開花予想と観察会当日の天気の前
予想は、この時期、常に頭を悩ませる問題です。

今回もご多分に漏れず、NHKのデータ放送
では直前まで午前中雨の予報で諦めかけていた
ところ、午後7時前の予報では、大逆転、降水
確率30%と無事開催できることになりました。
それどころかにわか雨の心配も無いとの急な変
わりように「どう言うこと」と思わず苦笑。

4月4日の当日は、開始時間を9時に早めた
にもかかわらず15名の方に参加いただき、主
催者としては大感激、参加いただいた皆さまに
大感謝です。

サクラの開花予想についても、大当たり、佐
保川沿いのソメイヨシノは文字通り満開となり



温かく私たちを迎えてくれました。

【朝の集合写真】 【橋上から撮影に夢中】

とは言え、奈良公園近辺での桜見物につい
ては桜の種類と同じく打つ手がたくさんあり、ソ
メイヨシノの開花が遅れば早咲きのカワヅザ
クラや氷室神社のシダレザクラが楽しめ、早す
ぎれば遅咲きのナラノココノエザクラやナラノ



ヤエザクラ、更に各種サトザクラが楽しめます。

【オオシマザクラ】 【葉桜となったカワヅザクラ】

今回は、大当たりのソメイヨシノに焦点を当
て、佐保川沿いを中心に桜見物いたしました。



【桜のトンネル】



【水上の桜の競演】

佐保川には法蓮町の下長慶橋から杏町の和
郡山市境までの全長およそ5kmにわたりソメ
イヨシノを中心に桜の木が植えられています。
その数1000本以上。また今年で23回目の佐
保川桜祭り燈花会も開催され約110基の行燈
がかざられています。今年の開催テーマは「挨
拶」。行燈には公募で集められた参加者のメッ
セージが揮毫され名句に思わず顔がほころびます。



【コヒガンの特徴は?】



【カワヅザクラの古木】

佐保川小学校前ではオオシマザクラ、JR踏切
の東側では早咲きのカワヅザクラ鑑賞。こちら
は既に葉桜に変身。またJR踏切手前の土手では、
十字対生の葉の下に身を潜めるように咲く
オドリコソウの大型の白い花を見つけました。



【大仏鉄道記念公園の桜】



【お疲れさまでした】

このほかにも、エドヒガンいわれのシダレザ
クラ、マメザクラとの交雑で生まれたとされる
コヒガン、更には江戸末期の奈良町奉行川路聖
謨の呼び掛けで植えられ樹齢170年と伝わる
カワヅザクラ、大仏鉄道記念公園での立派なシ
ダレザクラを鑑賞し、この日の観察会を無事終
了いたしました。

月例研修会

信貴山朝護孫子寺

信貴山城跡の桜を見る



戸田 博子

2022年度・月例研修会第一回目の行事

4月5日(火)快晴、無風で絶好の花見日和になった。参加者は27名で、ここ2年の月例



研修会の中で最も多く、良いスタートになった。桜も満開に近く、天気も良いのでバスは満員、

20分程で信貴山大橋に到着した。バス停には、お願いしていたボランティアガイドの益田さんと平川さんが迎えて下さり、参加者は2班に分かれて10時に朝護孫子寺に向かって出発した。

信貴山の山門は迫力ある仁王様(左右が逆というお話)を見上げ、猪上神社の横を通り、名物の「大寅」の前では、写真撮影の順番待ちだ。

赤門を抜けると「かやの木稻荷」では、樹齢1500年の神木榎の木があった。聖徳太子の時代から生きているわけだ。巨大な榎だった。

この辺りから徐々に階段の登りになり、参加者は少しバラバラになったが、やっと毘沙門天を祀る本堂に到着した。ガイドさんから、百足



は毘沙門天のお使いとの話を聞き、改めて本堂の彫物を見た。説明されなければ、見逃していたと思う。

本堂からはお寺全体が見え、桜の桃色、樹々の若葉の黄緑、風にはためく赤い幟のぼり、清水寺の舞台に引けを取らない美しさだった。

本堂地下の戒壇巡りは全く見えない真っ暗闇の空間だ。真ん中辺りに「如意宝珠」が納めら

れた錠前に触れると心願成就の利益があるということで、みんな壁を探りながら歩いた。

本堂横の霊宝館で「信貴山縁起絵巻」を鑑賞したが、時間が足りなくて残念だった。

ここでボランティアガイドの方と別れた。

11時20分信貴山空鉢護法堂(信貴山城跡・標高437m)を目指して、12時に全員登り切った。護法堂を少し下ったところに、開けた場所があり、そこで昼食花見の宴の始まりだ。

密を避けるため集まってお弁当は広げられなかったけれど、同じ景色を見て、食べたり飲んだりするのは楽しいことだ。意外と他の登頂者は少なかったので、当会貸し切り状態になった。



偶然にも、シニア自然大学校の鉾物クラブのメンバーで、当会エコ班の古結さんが私たちに声をかけられた。久しぶりの再会になった。

13時30分に信貴山を降りる予定だったが、半数近くが松永屋敷跡など午前中見られなかった所に行きたいとの希望で、先に出発した。

信貴山門バス停14時59分に集合で、自由に歩いてもらったのだが、バス停名が紛らわしく朝に降りた信貴大橋の方に行ってしまう方々が13名おられた。同じ経路ではあるが、会の世話人としては、確認が甘かったと反省している。でも、まずは天候に恵まれ、疲れはありながら全員が無事お花見を楽しみ、一人で行くのとは違う経験をされたと思う。

次回6月のアジサイの花見も、皆さまのご参加をお待ちしています。



百足の彫物

私の体感的音楽遍歴

吉川 利文

私は坊主であるが、音楽家ではない。なぜ、いまだき音楽遍歴を書き留めるのか。今年80歳の大台に乗ることになり、そろそろ終活の年ごろ。私の半生にとって音楽は心の原動力で、終活には避けて通れないからである。

さて、生涯で最も衝撃的な体感的音楽と言えば、北欧のバルト三国のうちの最北にあるエストニアの「民族音楽祭」で聞いた大合唱。2004年、知人たちとヨーロッパの音楽祭をいくつか見に行こうという計画が持ち上がり、その中に民族音楽祭を組み込んだ。エストニアは、ドイツ、スウェーデン、ロシアなどの強国に囲まれ、侵略され、隷属させられ続けた。第2次大戦ではナチスドイツやソ連の圧政下に置かれた。ソ連の支配を脱してやっと独立を獲得したのは戦後の1991年だった。それまで民衆の粘り強い独立運動があり、その精神的な支えになったのが「わが祖国 わが愛」という合唱曲だった。50年続いたソ連支配下では歌うことを禁止されたが、民衆の間でひそかに歌い継がれた。

一方、民族音楽祭は5年に1回開かれたが、大戦後、独立の機運が高まったころ、ソ連支配への憤懣（ふんまん）が爆発し、禁止されていた「わが祖国 わが愛」が突然大合唱になったことがある。それがきっかけで、独立達成後、民族音楽祭ではこの歌を全員で合唱するのが習わしとなった。

私たちのツアーはたまたま、5年に1回の音楽祭の年に当たっていた。絶好のチャンス。ただ見物するのではなく、参加しようということになった。頼まれて私は東京のエストニア大使館から「我が祖国 わが愛」の楽譜を取りよせ、合唱指導者に日本語の歌詞をつけてもらってツアー仲間で何度も練習した。

2004年7月4日、エストニアの首都タリン。会場の野外音楽堂は15万人入るといふ。それが人、人、人でびっしり埋まった。

プログラムのフィナーレ、いよいよ「わが祖国 わが愛」の大合唱だ。歌い手がステージに上るのに約

30分。後で聞くと、歌い手だけで3万人とか。幅200メートルはあろうかというステージの前方4カ所に指揮台。4人の指揮者により、厳かな曲が滑りだす。海鳴りのようだ。私たちも日本語で懸命に歌った。ふと振り返ると、みんな立ち上がって歌っている。外国からこの歌のために帰省した人たちが多いという。みんな泣いている。私たちも、エストニア人の思いに心を馳（は）せ、もらい泣きしながら歌った。

ところで、2013年、奇跡的な体験をした。ホームステイを通じて国際友好を深める市民運動の活動としてドイツのベルリンにほど近いブラウンシュバイクでホームステイしたときのこと。現地の歓迎パーティーで、みやげ代わりにウエルナー作曲の「野ばら」を、訪問した仲間とドイツ語で歌った。練習はしていたが、歌にしろ、ドイツ語にしろ、お世辞にもうまくなかった。それが意外にも大受けしたのだ。よく聞くと、なんとウエルナーはその地の出身であったという。よくぞ、郷土の音楽家の歌を歌ってくれた、とドイツ人たちが喜んだのである。気を良くした私は調子に乗ってシューベルトの「菩提樹」を日本語でサービスした。それなりに受けたが、「奇跡」には負けた。

モーツァルトの生誕250年の2006年はモーツァルトイヤー。私は彼のピアノ協奏曲21番第2楽章と出遭った。1967年公開のスウェーデン映画「みじかくも美しく燃え」の全編に流れ、「天上の音楽」と話題になったという曲だ。ポール・モーリアも感動してか編曲して、同じタイトルで自分のアルバムに入れている。私が初めて聞いた時、「モーツァルトは神の化身だ。でなければ神からこの世に遣わされた人だ」とうなった。20世紀最高の指揮者でありピアニストとされるゲオルグ・ショルティが「モーツァルトを聴いて、私は神を信じるようになった」と言ったという。まったく同感だ。

私は、自分の葬儀でこの曲を流してもらえば西方浄土へ往生できると思っている。妻にそのことを頼んだことがある。妻は「そんなこと覚えておれない。自分のことは自分でやって」とそっけない。自分の葬儀を自分で仕切れるはずがないのに…。

というわけで、終活はまだ仕上がらないのである。

ウメの病害虫-2

(病害虫講座-45)

病原菌も頑張っています



木村 裕

【黒星病】

果実の代表的な病害で、果実の表面に緑黒色の2~3ミリのすす状の円形の病斑がいくつも現われ、その部分は浅く凹みます。

枝上で越冬した病原菌が発生源となり、花が終わって小さな果実ができ始めた頃に孢子が飛び散って果実に感染しますが、被害症状が見え始めるのは5月に入ってからです。

潜伏期間中は症状が現れませんが、前年に発生した樹では枝上に菌が残っていますので、冬季と幼果の頃の薬剤散布が欠かせません。



【モンシロドクガ】

4~5月頃、黄色と黒色のツートンカラの綺麗な毛虫が発生して葉をかじります。集団で発生することはありませんが、毛に毒があるので触れないように注意。

ウメでは、マイマイガ、オビカレハ、ヒメシロモンドクガなどの毛虫もときどき発生します。



【ウメエダシャク】

黒地に黄色の小さな斑紋があるシャクトリムシが発生することがあります。発生する園では毎年発生するようですが、葉が丸坊主になることはありません。

成虫はモンシロチョウくらいの大きさの蛾で、白地に黒い筋紋があり、6月中頃にひらひらとウメの近辺をよく飛び回っています。



【ウメシロカイガラムシ】

幹や枝に長さ1~2ミリの、円盤状の白い口物質物が付着します。貝のかきの小型版です。針で円盤を剥がすと黄色の柔らかい虫が見つかります。発生が多いと枝全体が白い貝殻で埋まることもあります。脚はなく、ずっと固着したままで樹液を吸っています。防除は手間がかかりますがブラシ等でこすり落とすことです。



海外ボランティア活動体験記-2

パラグアイ (1997.4月~2002.3月)

木村 裕

パラグアイの首都、アスンシオンはパラグアイ川(下流ではラプラタ川となってアルゼンチンへ)に面し、海拔は100m前後の平坦な街で背の高いビルは少ない。中心部の建物はヨーロッパの中世風の様式を保ってはいるものの観光の目玉になるようなものはありません。

交通機関はバスが中心で、鉄道の線路はあるのですが過去の遺物と化しており、週に1回S-Lで引っ張る観光列車が走るだけです。バスは新品のピカピカした車からちょっとぶち当たればバラバラに分解しそうなものまであり、ガタガタ道をもものすごい勢いで走りまわり、追い越し競争をやっていきます。

パラグアイには1万人前後の日系人が住んでいて、彼らの間では日本語会話も行われています。

パラグアイへは1936年~56年ころに日本人の入植がつつぎつつぎに行われ、今ではその当時子供であった人たちが担い手となっており、多くは農業に従事し、彼らが栽培するダイズは国の重要な輸出品となっています。首都近郊ではトマトやメロンなど野菜栽培も盛んで、パラグアイ人農家の先導的な役割をしています。また、農業に見切りをつけて流通や観光方面の仕事に転じた方もおられ、私たちボランティアはもろに彼らの恩恵を受け、快適とまでは言えませんが、大きなトラブルもなく無事に5年間過ごすことが出来ました

パラグアイ人の食習慣ではお米は主食ではありませんし、稲の姿を見たこともありません。主食は肉、ジャガイモ、キャッサバ、パンといったところで、野菜はあまり食べません。そのせいか太った人が多いです。私のカウンターパート(技術移転の対象者)の女性二人に目方を測ってもらったところ、それぞれ70kgと80kg

でしたが彼女らは、まったく気にしていません。

街を離れると牧場ばかりで牛の頭数は住民の何倍もいることでしょう。牛の姿は広い原っぱにところどころに見られる程度のいたって粗放的な牧畜で、餌となる食べ物も牧草ではなくそこらに勝手に生える野草です。そのせいか肉質は硬くて、ワイフはいつも美味しくないとぼやき、アルゼンチンからの輸入肉を買っていました。



しかし、この堅い肉でもパラグアイ方式のアサード(焼肉)にすると非常に美味しいです。大きな塊に塩をまぶして炭火でじっくりと焼き上げます。太い腸詰めソーセージも同時に焼きますがごちそうです。カウンターパートたちは時々この楽しいイベントをしてくれました。市内のブラジルレストランでこのアサードを専門にしているところがあり、食い放題で部位別に焼いた肉を堪能できます。

市場では肉はすべて塊売りのキロ単位で安価です。しかし残念ながらスライスしたものはありません。そこで我が家では生活の知恵?を働かし、まず塊を冷凍し、それを包丁で薄く切って薄切り肉をこしらえていました。

配属先の食堂ではミラネッサ(肉を叩いて薄くし、塩コショウで下味をつけ、小麦粉にまぶして揚げたもの、日本のトンカツのようなもの)がよくでてきました。味はまあまあ。

パンは食パンではなく、コッペパンタイプが主体で焼き立てはまだよいのですが、時間がたつと硬くなり味はがた落ちです。ここの人たちはあまり気にしていませんが、メンバーの一人は業を煮やして日本から家庭用のパン焼き機を



取り寄せ、自家製の食パン作りに挑戦され、我が家もありがたくその恩恵に預かりました。

新ならやま投句箱

俳句

燕舞う	川面に映る	光眩し	戸田博子
春野草	命の限り	手を広げ	阿部和生
岸染める	海津の桜	武奈を背に	八木順一
鳥の合唱 <small>こえ</small>	やっぴりん口は	ウグイスか	千載輝重
よう来た	と川井桜の	花吹雪	中井弘
花吹雪	大鍋の蓋	そつと閉め	小島武雄
落ち椿	仰ぐ梢や	空の青	坂東久平
春耕や	土の匂いに	ツグミ寄る	古川祐司
花散るや	故人と暮打つ	夢うつつ	羽尻嵩
喜びも	悲しみも乗せ	花筏	豊田治代
葉に隠れ	白き踊り子	春告げる	辻本信一
花の下	老いも若きも	ニユーフェイス	藤原 勲
桜散る	妻と見し日々	帰らずや	笠井文夫

新ならやま投句箱スタート 俳句・川柳・短歌 気楽に投句を！！

短歌

「人の道」哀しからずやウクライナ

戦火逃れる母子頭巾

岡田安弘

川柳

花吹雪 ゴーグル・マスクで万歩行

柳司

吾子の声 古きテープによみがえる 過去よみがえる

おつとつと 朝体操の音止まる たけちゃん

真新し 制服いつかぴつたり 山おんな

プーチンめ プーチンと切れたおそろシマ トラ吉

使途公開 できぬ議員の 文通費 Wボギー

コロナでも 今日生きてる 酒うまし せんちゃん

生きにくや コロナに地震 独裁者 ハーちゃん

プーチンに 先越されたと思つてない？ ネ「じやらい

次号締切 6月中旬 投稿先 田中善英

行事案内



5月自然教室のご案内

新緑の生駒滝寺周辺 自然観察会

辻本 信一

昨年の同時期開催を予定していましたが、コロナ禍のため急遽中止となりましたが、今年はそのリベンジとして同一企画にて実施致します。

ご案内は勿論、皆さまおなじみの大阪自然史博物館友の会副会長の田代貢先生です。

今年に入ってから新型コロナの感染状況に改善は見られませんが、3回目のワクチン接種を終えられた方も多く見られますので、安全対策として、マスク着用と3密回避の徹底を図り、午前中の開催として実施いたします。

「生駒の山のふところに、緑の森を巡らせて、溪の瀬音を聞くところ、歴史も古き滝の寺」と謳われた、前回、2018年10月に訪れた清瀧山大乗瀧寺（通称滝寺）周辺での観察会を、下記要領にて実施いたします。

駅からたった5分で行き成りの森林浴。

自分自身の身体への健康奉仕として、お友達もお誘いのうえ、皆さまこぞってご参加ください。

実施要項

1. 日時：5月16日(月)9時30分～12時
(予定)
2. 集合場所：近鉄生駒駅中央改札口
(出たところ)
3. 持ち物：今回も昼食は挟みませんので、飲み物と筆記用具、あれば図鑑とルーペをご持参ください。
4. その他：事前の申し込みは不要です。

雨天時の中止は当会申し合わせ通りといたします。(但し、予備日は設けておりません)

担当：辻本

「Green Gift 地球元気プログラム」

わくわく！ドキドキ！お山を歩こう

小島 武雄

新型コロナウイルス感染予防のため、時間と参加人数を制限して実施します。

今後の新型コロナウイルス感染状況によりましては、急遽イベント開催の中止もしくは募集人数に制限が掛かることがありますので、予めご了承の程お願いいたします。

詳細は5月以降の当会HPをご参照ください。

実施要項

1. 日時：5月21日(土)
9時30分～12時30分(受付9時)
前日19時前のNHK天気予報で奈良県北部の降水確率50%以上の場合は5月28日(土)に延期
2. 募集人数：小学生のご家族合わせて40名
3. 場所：ならやまベースキャンプ
4. 参加費：無料
5. ならやまの里山と観察路を歩き観察、体験、里山の話など自然に親しみ理解を深める。
6. 申込み方法：5月1日よりメールにて受付。
7. メール宛先：event@naranature.com



2022年4月度 幹事会報告

日時：3月29日(火) 14:00~16:30

I JR トンネル周辺の工事は1ヶ月くらい(4月下旬まで?) 続くので注意するように。

II 会計、総務部より

- ・ 会員動向：157名(4名退会、4名入会)
- ・ 会計報告：収支の内訳説明あり

III 活動・行事関係

- ・ 5/21GG プログラムは午前中とする。
定員20名、保護者20名程度募集する

* ならやまプロジェクト関係

- ・ 新入会員12名のオリエンテーションをA・Bの2班に分けて各Gで活動する(4~5月)
- ・ チッパー機の使用後はメンテナンスを行う
正しい使用と防護具を身につけること
- ・ 草刈機、不具合があればまとめてメンテナンスに出すので各Gで点検を
- ・ 蜜蜂の数が不足で受粉に影響がある対策を
- ・ 5/14 総会後の懇親会は中止の可能性大、臨時幹事会で決める。

IV 企画、助成金事業案件

- ・ 記念誌：300冊(会員は会報誌4月号に同封)
- ・ 図録：1000部(案内を会報誌4月号に掲載)
- ・ 助成金事業は順調に進捗。来年度以降、助成金は減少する見込みであり、経費節減努力が必要。

V 喫緊、提案事項

- ・ 新幹事候補は何とか目途がつつつつある。
臨時幹事会までに候補者を確認し組織体制案を策定する。
- ・ 土日活动：月1回の活動を検討する。

VI 広報関係

- ・ 5月号編集計画確認
- ・ マンスリー、レポ記事には記録として必ず参加人数を記載すること

VI 報告、連絡事項、その他

- ・ 例研、自然教室、案内
- 次回幹事会 4/12(臨時) 4/26(定例)



飲み過ぎた。「飲み疲れ」といいながら「もう春だなあ」と外を見る。新聞の俳句歳時記に「花疲れ」という季語があるという文字が目にと

まった。桜を見に出かけてくたくたに疲れることをいうそうだ。花見が大好きで、とことん楽しみ、余韻を楽しむということだろう。

ならやまの活動日に体を動かして疲れたといい、花見をして疲れた、酒を飲んで疲れた。この頃、「疲れた」が多くなってきた。でも、これは歳のせいではなく、「心地よい疲れ」を感じる楽しい事が増えてきた。また、疲れたといえる余裕があるんだと思うことにした。春真っ盛り、生き物が動き出す。ならやまの自然の中でゆっくりと「心地よい疲れ」を楽しみながら、のんびりと春を楽しみたい。気がかりな「コロナ疲れ」もいつかは終わる。そうなれば、もっと楽しいことが増えるはず。

6月ならやま活動&行事予告

- * ならやま活動(木)2日 協働活動日
- * 月例研修会 6/14 矢田丘陵・松尾寺
- * 自然教室 6/27 奈良公園 自然観察会

会員動向(敬称略)

<退会者>

- 3/31 ・ 勝田 均・磯貝 猛・杉山 潤子
- ・ 澤田 恵津子・更谷 佳津子
- ・ 中嶋 さよ子
- 4/8 ・ 嶋田 良子

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎・千載・田中(善)・戸田・豊田・増田

表紙写真：鈴木顧問の指導による武者人形作りが行われ、会員の力作が出来上がりました。